

自治体の課題、現状

- 札幌市の中学校生徒数は、H25の45,149人からR6には43,982人と、約1,200人減少している。学校の部活動設置状況についても、R6は運動部940部、文化部230部、合計1,170部となっており、H25と比較して約40部減少している。
- 現状においては中学校生徒数および部活動設置数ともに微減の状況であるが、昨今の出生者数の状況を踏まえると、将来的には札幌市においても大幅な中学校生徒数の減少が見込まれことから、少子化が進む中にあるにもかかわらず、将来にわたって生徒が継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を確保・充実するため部活動改革を進めて行く。

地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	98 校	全生徒数	43,503 人
域内の部活動数	1,170 部活 (運動部940部、 文化部230部)	実施した 地域クラブ数	1 クラブ
全体の指導者数	33 人	全体の 運営スタッフ数	延べ37 人
運営団体	一般財団法人札幌市スポーツ協会		
主な種目	バドミントン、HIP-HOP、アーチェリー、テニス、スポーツクライミング、キンボールスポーツ、ブレイキン、ラクロス、ボクシング、ハンドボール、カーリングの計11種目		
平均的な活動回数	2024年9月から 2025年2月までの期 間中、各種目につい て2回実施（計22 回）	年間平均 参加生徒実数	1年生 115人 2年生 80人 3年生 21人 無回答 2人 合計 218人
参加会費	1回500円	主な活動場所	スポーツ施設

地域移行関連の取組、成果

市内のスポーツ競技団体の総括や市内のスポーツ施設の管理運営を行う札幌市スポーツ協会と連携することにより、市内の子どものニーズを踏まえつつ、各スポーツ競技団体を活用し、従来の学校部活動にはない種目も含めた多様なスポーツに気軽に触れることができる地域スポーツクラブ活動の実証事業を企画・実施するとともに、市内のスポーツ施設を有効に活用することができた。参加者の7割が未経験の種目に参加しており、また、参加の動機として、参加者の3割が「普段と違うスポーツをやってみたい」「やる機会がなかったから」と回答していることから、生徒に新しい活動機会を提供し、従来の学校部活動にはない選択肢を広げた点が評価できる。さらに、札幌市スポーツ協会を通じて、市内の各競技団体と連携した形で事業を実施することで、地域全体で生徒の成長を支える仕組みの構築に向けた成果・課題を洗い出すことができた点も重要である。

運営体制図

